広報のあさひ

No. 176

昭和46年7月10日

≪また一つ学校プール≫

暑い夏がやってきた。これからは水の恋しい季節，ましてや育ち盛りの子どもたちにとっては，水は切っても切り離せないもの。しかし，河川の汚れがひどくなり最近では水遊びのできる川は少なくなっている。そうしたこともあって，町内の各学校にはプールがつぎつぎと作られており，また一つ立木小学校に新しい学校プールが誕生しようとしている。25㍍に10㍍のビニールプールだが，今月の中旬には完成が予定されており，子どもたちもその日の来るのを指折り数えて待っている。

≪ プールの工事が進む＝立木小で ≫

ご存知ですか？

米の生産調整はどうなっている

数年前までは六十万トン米づくり、をスローガンに米の増産運動が続けられてきた。栽培技術の向上などもあって、史上最高の豊作といったことが毎年のように聞かれた。ところが一昨年になって米が余りすぎて生産を調整しなければならないといった事態がおきたのです。

そしてこのままの状態では、食管制度を維持して行くことはできないといったことから生産調整がすすめられ、朝日町でも目標の百％をこえる実績をあげることができたわけです。

ところが、今年は更に昨年の二倍をこえる目標数量が示され「農民の要望も十分取り入れられない状態の中で、これ以上の生産調整には応じられない」といった強い意見も多く出されたが、結局「長期的な展望に立って米の需要と供給のバランスをとるためには生産調整もやむを得ない」「売れない米を作ってもしかたがない」といったことから、各農協を中心として今年も生産調整がすすめられております。

ところで、現在の状況はどうなっているのか、ということですが町の振興課で取りまとめた数字によりますと朝日町の生産目標数量一三六、六㌶（七〇二㌧）に対し、一一三、二％の計画面積となっております。

この内訳をみますと、大豆、飼料など普通転作が二二、九㌶、果樹、林木など永年作物への転作が三八、三％、単純休耕が一、六㌶、その他養魚池などが三七、二％となっております。

さらに、部落別の実績では一三〇％以上となっているのが沼向、本町、立木、白倉、一ツ沢大舟木、今平、大沼など十二の部落ですが、山間部地区がおしなべて高い実績を示しているのが注目されます。一〇〇％までは常盤など二十一地区、九〇〜九九％までが大町など八地区、七〇〜八九％が元町など十一地区、七〇％以下が真中の一地区となっております。

以上のように各農家から、調整計画として出されておりますが、この現地確認作業は、七月十三日から五日間の日程で、町職員、普及所、食糧事務所、県職員など十六班に分かれて各部落毎に行なわれる予定です。そして、その結果にもとずいて転作奨励補助金などの交付が行なわれるわけですが、八月末にキロ当り四〇円の内金が交付され残りは来年の二月頃になるだろうということです。

また、この生産調整は今後どうなるのか、ということですが数量に多少の変動はあっても今後五カ年間は継続すると言っており、やはり、長期的な展望に立った米つくり、あるいは農業経営のあり方というものを十分考えた取り組み方が望まれるようです。

こうした中で、北部地区、とくに大沼、大暮山地区では第二次構造改善事業の一つとして米の生産調整を取りあげ、部落ぐるみで水田を果樹や桑園に転換しようと計画にとりかかっております。

部落の実施状況

130 ％ 以上	沼向，本町，太郎2，太郎3，大舟木，今平，立木，白倉，一ツ沢，太郎1，川通大沼
100 ～ 129％	下芦沢，大滝，宇津野，宿，西町，古槇，栄町，常盤，夏草，西舟渡，八ツ沼，能中高田，長沼，石須部，大谷3，大谷4，大谷7，中沢，舟渡，栗木沢
90 ～ 99 ％	助の巻，大町，前田沢，新宿，四の沢，小原，松程，大暮山
70 ～ 89 ％	元町，大隅，送橋，水本，杉山，松原，雪谷，大谷1，大谷2，大谷5，大谷6
70 ％ 以下	真中

米生産調整数量配分等

項目＼地区	目標数量			計画	
	数量	平均反収	同左面積	面積	対目標比
	t	kg	ha	ha	％
中部	254.0	517	49.30	48.99	99.4
西部	227.0	496	45.50	64.20	141.1
北部	221.0	527	41.78	41.41	99.1
計	702.0	514	136.58	154.60	113.2

明日の郷土を考える

25回

具体化する過疎対策

中学校の統合をすすめる

わが町は、人口が急激に減ったために「過疎地域」としての指定をうけることになったわけです。

広報先月号には、この過疎地域の指定にともなって作成された「過疎地域振興計画」の中から、道路交通網の整備計画を中心に紹介しましたそこで今月は、教育や福祉の面でどんな手だてをすすめようとしているのか、について主なものをひろってみようと思います。

減って行く児童数

まずはじめに、教育文化施設の整備関係について紹介したいと思います。

現在、朝日町には幼児教育（保育）の施設としては、三つの町立保育所をはじめ、小学校は分校をふくめて十五校、中学校は三校、そのほか県立左沢高等学校の朝日分校があります。

ところで、朝日町の児童生徒数の動向をみますと、別表にも見られるように、今後四年のあいだに小学校では三百二十八名（一五・三%）中学校では百三十九名（一六・八%）の生徒が減ることが予想されます。とくに、一ツ沢分校大舟木分校・三中分校・和合小・大沼分校・川通分校など、小学校の児童減少がめだってきています。こうしたことから、昭和五十年までに二二%の減少となっている中学校のばあいも、五十年以降にはさらに生徒の減少が目立ってくることが予想されます。

生徒が少なくなれば先生の数も減らされ、復式や複々式の学校になってしまうわけです。一年生から三年生まで、あるいは一年生から六年生までが一つの教室で勉強するとなれば、当然学力も低下することが考えられるし、丈夫な身体、健全な心を育てるためのクラブ活動などもできなくなってしまいます。

そのために、学校の統配合や学区の再編成などを行なって、あるていど適正な規模にし、教育の効果を高めて行くことが必要になってきているわけです。

ただ小学校の場合は、いろんな問題があって今すぐ統合に着手することは難かしいため、こんどの計画（四か年の実施計画）の中では、中学校の統合だけを取りあげております。

統合は四十八年度に

中学校の統合については、この広報紙上でも何度か取りあげてきたし、町政座談会などを通しても教育委員会の方針としても明らかにしていますが、こんどの計画でも、中学校の統合は教育部門の柱としてかかげています。

それによると、昭和四十七年度中に町の中心地である宮宿地区に用地を購入し、統合中学校用地として整地する。そして、昭和四十八年四月には名目的な統合を行ない、昭和五十年度に実質統合をしたいという計画です。

このばあい、西中、大谷中の校舎は、それぞれ西五百川校舎、大谷校舎として、今までどおり使用

児童生徒数の推移

学校名	児童生徒数 46年	児童生徒数 50年	比較 46/50
	人	人	
立木小校	60	44	26.7
		(2)	
一ツ沢分校	11	7	36.4
西五百川分校	307	224	27.1
大舟木分校	25	17	32.0
三中分校	28	14	50.0
宮宿合郷小学校	304	228	25.0
和上分校	97	65	33.0
杉山小学校	82	71	13.5
送橋分校	3	3	0
水谷小学校	49	39	20.5
大沼分校	24	20	16.7
大谷中学校	251	197	21.6
大暮分校	20	7	65.0
大通分校	36	35	3.8
川通計	4	2	50.0
	1,301	973	25.3
西五百川中学校	291	218	27.8
宮宿谷中学校	343	296	13.7
大谷中学校	195	176	9.8
五中計	829	690	16.8
合計	2,130	1,663	22.0

六月の町政日誌

6月1日　立木小プール工事入札
6月3日　母子保健推進委員研修会（役場）
〃　朝日町有線放送協会総会（同）
6月6日　町民釣大会（上郷）
6月7日　農協合併協議会
〃　区長会評議員会
6月10日　振興対策協議会
6月10日～11日　町民税査定
6月14日　選挙管理委員会
6月15日　体育協会理事会
6月16日　福祉相談
6月17日　農業委員会
6月19日　郡内中学校体育大会
6月23日　庁舎及び開発センター建築委員会
6月24日　定例町議会
6月27日　参議院選挙
6月28日　国保運営委員会
〃　開発センター竣工記念行事打合せ会
6月29日　衛生組合長研修会

し、実質統合にはいるまでの間に新校舎や寄宿舎、体育館、給食センターといったものを建設して行くことになります。

しかし、これで問題が解決されるわけではありません。実質統合にはいる昭和五十年度までのあいだに、新校舎などの建設ができるかどうか、通学の問題をどうするかといったことがあるわけです。

いますでに寄宿舎にはいっている地区のばあいは統合をやっても新しい寄宿舎にはいるだけなのでそう大きな問題は考えられない。ところが、統合によって通学距離の延びるその他の地区にとっては通学をどうするか、といったことは大きな問題なわけです。

「町でスクールバスを購入して回してほしい」「バス通学にして町で通学費を支給してほしい」といったことが、町政座談会などでも強い意見として出されており、そおした問題をどう解決して行くかということが、今後の課題として残されております。

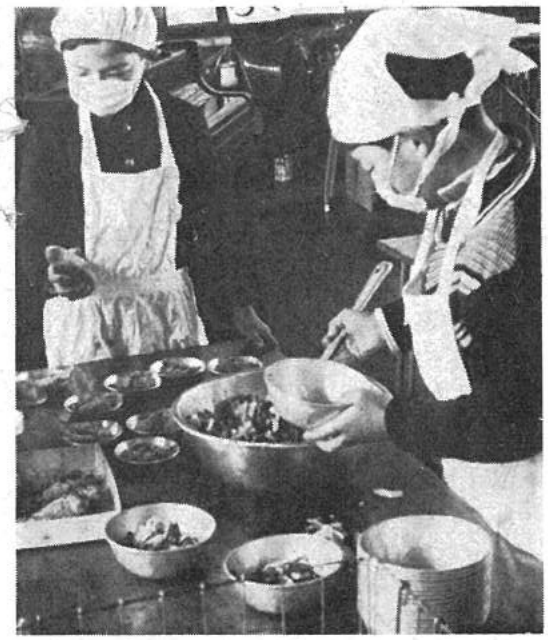
給食センターもつくる

ところで、中学校を統合することによって新校舎や体育館、寄宿舎、給食施設といったものが必要になってくるわけですが、このうち給食施設については中学校単独のものでなく、小中学校をあわせた給食センターをつくる計画でおります。

現在、給食施設のある学校は、中学校では大谷中学校のみ、小学校では川通分校をのぞく全校（分校）となっており、各学校毎に給食が行なわれています。

しかし、ほとんどの給食施設は十数年も前につくられており、老朽がひどく時代おくれの施設で、早急な改築が必要になっていますさらに、各学校毎に給食の職員を置かなければならないこともあって、いろんな点で無駄が多くなるわけです。そうしたことから、中学校の統合を機会に、小中学校の給食を一本にした給食センターを考えているわけです。

そして、遠距離にある水本、大舟木、大沼、川通、一ツ沢、大暮山の各校を除く、小中学校に給食を配送し、給食内容の充実、経費の節減などをはかろうというものです。



（給食の充実のためにも給食センターが必要になる）

社会教育施設も整備

つぎに社会教育施設の整備計画について紹介したいと思います。

現在、社会教育の施設としては西部、北部の両公民館のほか、中央公民館的な機能をもつ施設として工事がすすめられている開発センターがあげられます。

そのほか、部落公民館がいくつかの地区に設置されていて、各部落のセンターとして利用されています。しかし、町民体育館や町民グランドといったその他の施設がほとんどなく、部落公民館にしても整備のおくれが目立っております。そうしたことから、こんどの計画でも公民館などの整備を中心に取りあげております。

まず、四十七年から三か年の間に和合、立木、宮宿の各地区に、地区公民館の建設を考えているほか、大沼など十一の地区に助成を行なって部落公民館の新設をすすめる計画です。

さらに、勤労青少年のための体育施設として、体育館の建設が計画されています。これは、青年や婦人層の間からも強い要望として出されていたもので、ようやく実現されることになったものです。

計画によると、現在工事がすすめられている開発センターの東側に、軽鉄骨づくり広さ一千平方米（約三百三坪）の体育館を建設するもので、できれば来年度にも着工したい考えで、準備がすすめられています。

そのほかでは、立木小学校のプール建設（四十六年度設置）スクールバスの購入（四十九年度）などの教育施設の整備がもられております。

充実される福祉施設

町政座談会やこの広報紙上などでも「福祉行政の充実」を望む声が多く出されてきましたが、こんどの計画の中では、福祉施設の整備を大きく取りあげています。

まず、精神薄弱者の更正福祉施設の建設があります。これは昭和四十七年から二か年の継続事業として、百名収容ていどの施設をつくるもので、建設候補地として北部地区があげられています。

さらに、町政座談会などでも多くの人たちから要望として出された「老人保養センター」を四十九

言葉の辞典

子どもの国＝少し規模を大きくした子どもの遊園地といったもので、すべり台・ぶらんこ・鉄棒などの遊園施設はもちろんソフトボールなどもできる広場やプールなどの施設もつくられる予定です。朝日町も交通量の増大など、しだいに都市化が進み、子どもたちが安心して遊べる場所は非常に少なくなっています。

そうしたことから、各地区の拠点となる集落に子どもの広場をつくるほか、中心集落である宮宿地内に、子どもたちに夢を持たせ楽しく安全に遊ぶことのできる、大遊園地をつくろうというものです。

年に建設する。「子供の広場」を四十七年から三か年で町内七か所につくる。町の中心集落である宮宿地区に「子供の国」を建設するといったことがもられています。そのほか、町立保育所の整備として北部保育所の新築（四七年）西部および中部保育所の一部移転増改築（四六～四七年）が計画されています。このうち北部保育所は現在の施設が老朽化してせまいうえに、設置場所もあまりよくないといったことから、別の場所に軽鉄骨づくりの立派な保育所を新築しようというものです。

また、西部保育所は、一部旧診療所の建物を使用しているが、老朽がひどい上に二か所に分かれているため、一つの場所に移転改築するものです。

（老人福祉施設の整備も計画されている……）

消防自動車を購入

消防施設の整備では、昭和四十九年までのあいだに三台の自動車ポンプを購入して、各地区に配備し、消防施設の充実をすすめます。

また、無医地区の医療対策の一つとしてマイクロバス一台を購入し、へき地部落からの患者輸送に利用する計画です。

さらに、環境衛生関係では、町水道給水区域外である大沼など三地区に簡易水道をつくるほか、ごみ収集用の二トンダンプ一台を購入、危険物ごみの収集や埋立地の新設などを行なって、環境衛生面を充実する考えです。

観光施設の整備はかる

「観光開発にもっと力を入れるべきだ」といったことは、今までも強い住民のねがいとして、いろんな機会に多くの方たちから出されてきましたが、こんどの計画では観光施設の整備も大きく取りあげております。

その主なものを紹介してみようと思います。まず、白滝登山道路の整備があげられます。これは、現在の登山道路とは別の場所に幅一・五米、延長六千米におよぶ登山道を新設するもので、四十七年度に工事を行なう予定です。

つぎには、国民宿舎の建設が計画されています。町には、自然景観に恵まれた国立公園の朝日連峰があり、登山客や自然を求めて訪ずれる人たちも多くなっているが宿泊施設がなく「なんとか国民宿舎のような施設がほしい」といったことから、こんどの計画で取りあげられたものです。

計画によると、朝日岳への登山基地であり、朝日川の景勝地でもある猿渡地内に、鉄筋コンクリート造りの近代的な施設をつくるもので、四十八年度着工を予定しております。

自然休養村も設置

朝日町の約七十％は山地でありその山地の大部分は原始景観に恵まれた国立公園の山岳地帯で占められています。そうしたことからも「この恵まれた自然をどう生かすか」ということが、町の観光を考える上で重要になってくると思われます。

内容的にはまだ具体的なものにはなっておりませんが、山間にある集落の家屋を保存し、民宿施設として活用する。そして、山菜園や果実もぎとり園をつくったり、森林公園、バンガロー・キャンプ場などをつくり、大自然の中で人々が休養できる各種の施設などを結びつけた、大規模自然公園といったものをつくろうというものです。

そのほかでは、今後の朝日観光開発ルートとして大きな期待が寄せられている峰越林道（猿渡～黒鴨間）の大禿森に展望台と駐車場をつくる。さらに、野々山地内にスキー場を新設、スキーリフト・ロープ塔・ロッチなどの施設をつくり観光面からの開発をすすめようというものです。

以上、過疎地域の指定にともなって作成された振興計画の中から今後四か年間に実施を予定している主な事業について紹介いたしました。

この中で、農業振興についての計画にはふれませんでしたが、その点については、農業振興地域の指定にともなう「農業振興計画」が近く作られることになっておりその時点で詳しく紹介する考えですのでご了解ください。

なお、この過疎地域の指定期間は今後十か年間となっておりますが、ここに紹介した振興計画は今後四か年間の実施計画であるわけです。

したがって「町として、今後こういう過疎対策をすべきでないか」といったことや「もっとこんな施策も取り入れるべきでないか」といったことなどがありましたらどしどし町当局にお寄せいただきたいと思います。

6月定例議会開く

水道料金七月から値上げ

六月定例町議会は、さる六月二十四日・二十五日の二日間、役場で開かれ、昭和四十六年度一般会計補正予算、水道給水条例の一部改正、過疎地域振興計画など十三の案件、六件の請願陳情などを審議、それぞれ可決、あるいは採択して終了しました。つぎに、その主な内容、一般質問の内容などをまとめて紹介したいと思います。

定例議会で決まったこと

○昭和四十六年度の一般会計補正予算

（これはすでにきまっている予算のほかに、新しく追加される事業のための費用などを計上したもので、区長・民生委員・農業委員の研修費、老人福祉相談員の設置にともなう費用、西部保育所の改築費、標準小作料協議会設置にともなう費用、航空写真撮影委託料、林道事業費の増にともなう費用、町道補修用砂利代、町史誌編さん資料調査員設置にともなう費用などがもられています）

○特別会計国民健康保険補正予算

（これは基金の預金利子を基金積立金にくり入れたもの）

○特別職に属する者の給与条例の一部改正

（老人家庭奉仕員の手当の増額と老人福祉相談員の設置により新しく加えたもの）

○手数料条例の一部改正について

（道路工事などを行なう際、測量や設計については他に委託する場合と役場の部内で行なう場合とがありますが、町で行なう場合の受託手数料などについてのはっきりした基準がなかったので、新しく設けることにしたものです）

○水道給水条例の一部改正

（原価よりも安い料金で給水をしてきたことや、水不足を解消するために増設工事をやったことなどにより、累積赤字の増大が予想されることから、給水料金を値上げするものです。今回の値上げにより当分料金の引上げが無い予想です。）

○世帯更生資金貸付基金条例の一部改正について

（世帯更生資金の貸付限度額五万円を十万円に引上げたもの）

○町立小中学校の設置及び管理に関する条例の一部改正について

（今まであった条例の中に、分校設置についての事項が入っていなかったため新しく挿入し、整備したもの）

○町有財産の処分について

（現在の役場庁舎跡地及び建物、元山形銀行敷地及び建物、木川分校建物などの町有財産をどう処分するか、という提案があり、議会内に議員全員による財産処分特別委員会を設置し、その中で処分方法などについて審議して行くことになった）

○朝日町過疎地域振興計画について

（これは、過疎地域の指定によって町の振興計画策定を急いでいたが、このほどまとまり議会の議決を得て正式に計画書として自治省に提出することになりました。なお、その主な内容についてはこの広報紙上の先月号及び今月号にのせております）

○四十五年度共用林野状況報告

（これは、国有林の山菜など副産物の利用状況を毎年営林署に報告するもので、町議会の議決を経なければならないもの）

○寄附採納について

（町の施設に寄附申込みがあったものです）

○町道路線の変更について

（県代行路線として計画されているため滑田線、三中線の路線を変更したものです）

○請願・陳情について、（町道編入についてなど、七件の請願陳情があり、それぞれ採択された）

文化財調査員きまる

このほど町の教育委員会では町史編さんのための資料を収集するため、文化財調査員として次の方々を委嘱することになりました。

大町　海野　富太郎氏
本町　佐直　信　雄氏

一般質問から

どんな過疎対策をやるか

○今後は第三次産業が中心となり都市の過密化などもあって、人々は自然を求めるようになる。そうしたことからも農村のレクリエーション基地化が望まれる。農業なども単に作物をつくるだけでなく観光的な要素が求められている。町としてはそうした点についてどう考えているのか。

町長　確かにその通りだ。観光農業といったことも言われているし町としても自然を生かしたレクリエーション基地づくりを進めたいと思う。さしあたって野々山の開発を考えているが、勤労青少年の体育施設としての体育館などもぜひ実現したいと思っている。

○集落再編成を考えているようだが、思いきった施策が望まれる。とくに過疎対策のための事務局を

強化すべきでないか。

町長　どこまで町で手をさしのべればよいのか難かしい。一ツ沢の場合も部落に出向いて話しあいをしているが、半数はすでに転出先をきめており残りの半数の人が問題だ。あくまでも本人の意志を尊重してすすめたい。事務局の強化も必要だが、広域市町村圏の計画作成のこともあり職員を増すのは難かしい。各部門別に分担して仕事をすすめて行きたい。

○過疎地域振興計画を作る過程で町民参加のもとですすめたというが、具体的にはどんなことをなされたのか。

町長　春の部落座談会では多くの要望が出されたが、それをできるだけもりこんで計画をつくった。しかし、補助や過疎債なども限度があって県の査定でも大幅に削られ、最終的にはお手元にさしあげたような計画書になった。

○これからの町を背負って立つ青年の声を十分に取り入れてこそ、実のある過疎対策ができると思うが、今後部落に入って町民の声を聞く考えはないか。

町長　直接青年たちの声を聞く機会がなかったが、間接的にはこんどの計画にも若い人たちの声が反映していると思う。また、この計画は四カ年の実施計画であり、その後の分はこれから作らなければならないものだ。それに今度の計画にしても一部変更はあり得ると思う。

企業の誘致はどうする

○農村工業導入促進法がつくられたが、町ではどんな計画をもって対処する考えか。

町長　まだ具体的な細い点まではっきりしていないようだが、町でも計画をたてて工業導入をすすめて行きたい。従業員二百名の工場であれば六工場ぐらいは誘致する必要があると思う。

○工業導入をすすめるには今から受け入れ態勢をつくっておく必要があると思う。工場の立地条件としては労働力の確保が第一の課題になると思うが、どの地区に誘致する考えか、労働力の確保はどうするのかお聞きしたい。

町長　千二百名ぐらいの人が就職できる企業がほしいと言ったが、現在の兼業農家の数、毎年の高校卒業者の数、あるいは昨年行なった農家の実態調査の結果などから千二百名ぐらいの企業が必要だと推則した。しかし、それだけの企業を誘致するのは難かしい。現在ある誘致企業も逐次増員しているが、まだまだ企業は少ない。できるだけ分散誘致したい考えではいるが、企業側では労働力の確保しやすい場所を望んでいるのでなかなか難かしい。

○日東食品では廃き物の処理場所がなくて困っていると聞いたが、町の誘致工場でもあり、工場とも話しあって処理場を探してやるとか援助すべきではないか。

町長　町でも年間操業ができるようにしてほしい、といった要望もしており、対策については十分考えて行きたい。

（農工一体の町づくりは……といった活発な質問が次々と出される）

衛生処理の強化を

○四の沢にある屎尿処理の中間貯溜槽の悪臭が問題になっている。周囲をコンクリートにするとか、水洗装置をつくるとかできないかまた、山間部落でもごみの処理では悩んでいる。町独自でごみ処理をすすめる考えはないか。

町長　四の沢の貯溜槽については業者にも注意するし、周囲にブロックを積むことは当然なので早速やります。ごみ処理については町内全地域が清掃地域に指定されるので、収集車をもう一台購入して強化したい。一方住民の協力もお願いしたい、川などにごみを捨てない運動をすすめて行きたい。

○農工一体化を促進するということだが、農業振興に対する取り組み方が不十分ではないか。また、減反の成績は県内一とも聞いているが、この結果に対して町長はどう考えているのか。

町長　農工一体といっても農業を度外視しているわけではない。第二次構造改善も積極的にすすめたい考えでいる。しかし、農家の人たちの意欲がなければどうにもならないので、皆さんの奮起を望みたい。また、減反の結果については喜こんでいるも何もない。強制させたこともないし、百%にしたいという考えで進めたつもりはない。ただ、売れない米を作るよりも別のものを作ればもっともうかるものもあるのではないか、といったことを考えながら対処して行きたい。

○農協合併は組合員の意志によってやるものと思うが、町民のしあわせにつながるような行政指導をやってほしい。

町長　当然のことと思う。合併協議会では合併しようという意見であった。西部では部落座談会などを開いてからきめるといっているが、将来のことを考え、第二次構造改善のことを考えれば当然合併を前提としてすすめるべきだと思う。

○地域の発展は道路整備が第一であるのは今更言うまでもない。町道あるいは県道の整備促進についてどう考えているのか。

町長　確かにその通りだ。こんどの過疎対策でも道路整備を中心に取上げている。しかし、限られた財源でもあり、思いきった改良までには行かない。主要県道である県道左沢・今平・長井線も逐次改良はすすんでいるが、夏草・水口地内など早急に改良するよう今後も強く働きかけて行きたい。

○今改良がすすめられている元町線から草林を経て西町に通ずる循環道路網が必要と思うが……

町長　工場団地などとの関連もあり、まだはっきりした計画はないが、今後検討してすすめたい。

○大蔵線の改良が強く望まれるが今後の見通しは……

町長　大蔵線は町の骨幹道的なものであり改良の促進を強く働きかけていきたい。

（以下略す）

カメラルポ

子どもたちに広場を

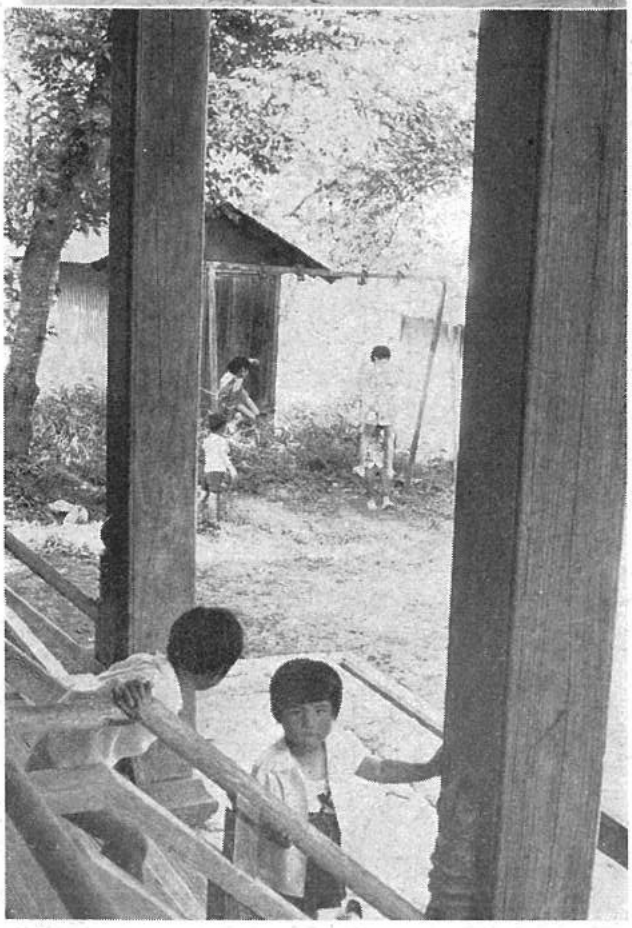
私たちの幼い頃の遊びと言えばかくれんぼ，城取り，いくさゴッコ，などといった単純な遊びが多かった。遊ぶ場所もまた神社の境内や道路，原っぱなど困るようなこともなかったと思う。ところで今の子どもたちは，いったいどうだろうか。

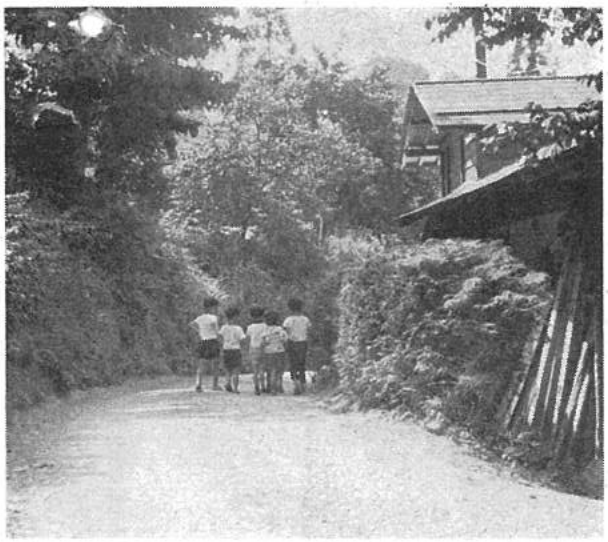
子どもを事故から守るために，子どもたちに広場を与えようといったことがよく言われます。しかし，いったいどこでどんな遊びをしているのだろうか。大いに興味のもたれることですが，町内数か所を廻って，子どもたちの姿をとらえてみました。

その日は日曜であったから，沢山の子どもたちを見かけるだろうと期待しましたが，結果は意外でした。常盤地区では５～６人の子どもたちがワイワイと話しながら歩いている姿を見かけたきり観音様の境内にきてようやく，ブランコ乗りなどをして遊んでいる子どもたちを見かけた。それも10人足らずの子どもたちでした。和合地区では，遊園地の中で４～５人の子どもたちがブランコ乗りをしていた。大谷では路上で自転車乗りをしている３人の男の子を見かけたほか，保育所の砂場で２人の子どもが砂遊びをやっていた。

以上いくつかの子どもたちの姿を紹介したが，やはり子どもたちの遊び場，広場が非常に少ないという感じがさせられた。

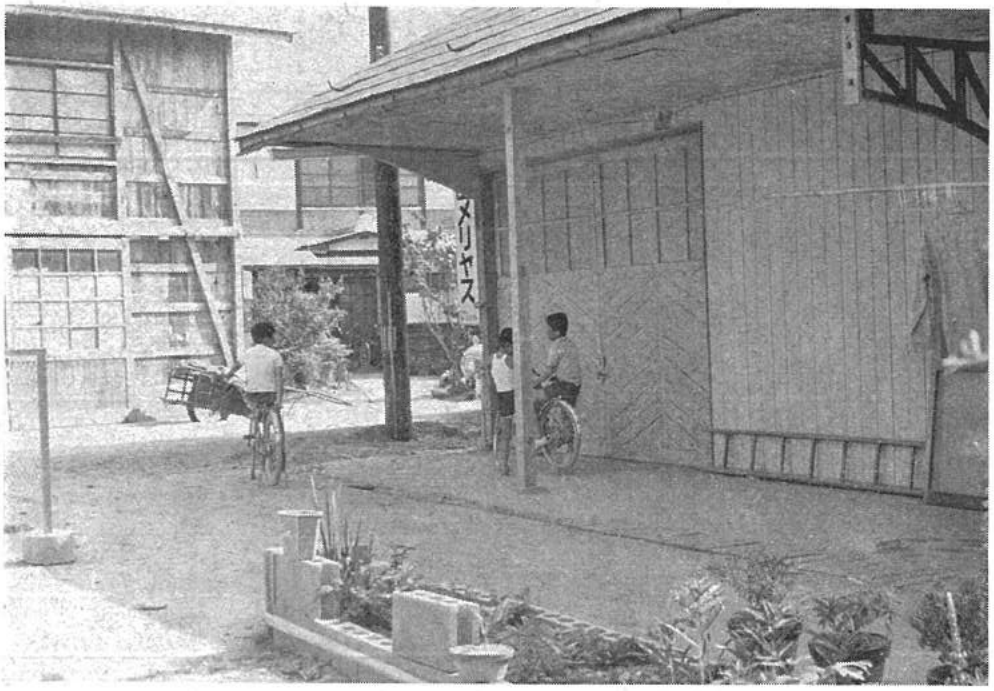
【砂場なども子どもたちにとっては格好な遊び場所になる】





【子どもたちにも自然にグループができる。遊びもまたグループによる遊びが多くなっている。せめてキャッチボールぐらいできる広場を与えてやれないものか……。】

【観音様や神社はたいていの部落にある。境内の広場を利用して簡単な遊具施設をつくれば，立派な遊園地として子どもたちからも喜こばれる。】



【路上で自転車乗りをするなという前に、子どもたちも自転車乗りを楽しみながら、交通規則などの勉強もできる広場、交通公園をなんとか作りたいもの……。】

教育レポート

大切な子どもを守ろう

――知事賞に輝く本町子ども会――

去る五月五日、県民会館大ホールにおいて、宮宿本町子ども会が、県優良子ども会として、県知事より表彰状をいただきました。受賞したのは、県内で、たった十七部落だけでした。

表彰の理由は

「朝日町宮宿本町子ども会は、協調性ある人間に育つことを目標に、キャンプ、道路清掃、廃品回収などの活動を行ない、お互いの間の団結ある子ども会に成長している。育成活動も、補導員を中心に、親子一体となって行なわれていることは、実に、他の子ども会の模範である。」というのでした。ところで、今、子どもたちの非行は、年々増加の一途をたどっています。

県内でも非行少年激増

―大江警察署発表―

今年二月二十六日大江地区学校警察連絡協議会において発表された、昭和四十五年中に補導した県内非行少年の状況は、次のとおりでした。

山形県内でおきた、ぬすみ・おどし・火つけ・殺人などのうち七六・一%、千三百三十九名が学生であり、とくに十四歳未満がひじょうにふえています。

その内訳は

高校生	四九三名	二八・〇%
中学生	四一五名	二三・六%
小学生	四〇〇名	二二・七%

また、夜あそび、さけのみ、たばこのみ、家出、さかりばあそび異性といたずらなどした者

高校生　四、一一七名
中学生　七九九名
小学生　四六四名

となっています。これでみると上級学校になるにしたがって、非行少年の数が多くなっていますがふえ方からみると、むしろ中学生が多くその大多数は中流家庭以上とくに上流家庭に多いそうです。肌さむくなる感じです。

このような現状にあるとき、知事賞に輝いた「本町子ども会の活動状況」の一たんを紹介し、今後の校外補導の参考にしていただきたいと思います。

本町子ども会の組織と活動

役員
会長（中）志藤浩治君
（小）安達善裕君
副会長（中）村山ひろみさん
（小）長岡良彦君
補導員　藤原光雄さん
川嶋祇子さん
長岡素子さん
会員数
小学生　四四名
中学生　二二名
計　六六名

四十五年度の活動

（子ども会誌より）

○祭りの旅さげ（四月二十九日）
豊竜神社の祭りに、部落内の大通りをかざるため、全員で万国旗さげをした。

○春の廃品回収（五月二十四日）
部落内の父兄の方々も熱心に協力、予想以上の収入があった。

○夏休みラジオ体操（夏休み中）
家族の方々も毎日大ぜい参加して、協力してくれた。

○キャンプ（八月五日、中学のみ）
白滝地区で一泊二日のキャンプをした。補導員さんや父兄の協力で、一生の思い出となるような、楽しいキャンプだった。

○映写会（夏休み中、小学生のみ）
児童会館で、二時間、とても面白かった。

○秋の廃品回収（九月二十七日）
春と同じで、家族ぐるみで協力しあって仕事をした。

○いもにかい（十月四日）
立木地区の川原で、小中合同でやった。とても大ぜいで、大へんだったが、補導員さんも全員参加し、とてもゆかいな一日だった。

○スキー大会（二月一日）
四の沢地区の山で行なった。これには、小学生三十一名が参加した。

○お別れ会（三月十四日）
児童会館で小中合同でした。

○交通教室
雨のため中止

○あそび場そうじ
第一と第三の日曜日

（野外キャンプをする子どもたち）

予算のあらまし

――年一名　約七〇〇円――

○区から　二〇、五〇〇円
○小中補導費　一、三二〇円
○育成会より　一、三二〇円

親たちの協力が実を結ぶ

ここで、本町子ども会の育成に努力されている補導員の藤原光雄さんに、いろいろお聞きすることにいたしました。

藤原さんは、四十二年度から、本町の補導員として、努力してくださっておられる方です。

それで、補導員をなさっての感想やら、ご意見などを話してもらいました。

（親も補導員も一体となって子供会を育てて行く考えが望まれる）

◦親の協力が第一

補導員として、今まで、いろいろなことをやってみましたが、何をするにも、親たちの協力がなければ絶対できないと思った。こんどの受賞なども、親たちの協力が実を結んだものだと、補導員として心から感謝している。

◦子ども会の行事について

私は、いつも、行事をするだけの子ども会になってはいけないと思っている。

しかし、ひまがありすぎると、悪いあそびをおぼえたり、不良化の道へ進みがちである。とくに長期間の休みのときなどはそうである。こんな時は、それらを防ぐためにも、一つ二つの行事は必要だろうと思っている。とくに、余り金をかけずに、親子そろっての行事などは、ぜひ実現させたいとさえ思っている。

◦子どもたちに協調性を

——共同生活を通して——

行事などをすることにより、学年のちがう子どもたちに、共同の話し合いの場、生活の場を与えてやりたいと思っている。

今の子どもたちは、学校から帰れば、家でテレビを見るか。二三の友人とあそぶにすぎないようである。広いあそび場もないためだろうが、学年のちがう子どもたちが、大ぜいで、何かをするなどということは、ほとんど見られないようである。こんな子どもたちに共同の場を与えてやることにより誰とでも仲よく、協力してやらなければならないことや、共同で生活する場合は、いろいろなきまりを守らなければならないことなどを学びとらせたいと思っている。

◦子どもたちに自主性を

——おとなはできるだけかまわない。——

何をするにも、子どもたち自身に計画させ、実行させたいと思っている。子どもたちも、それを何よりも強く望んでいるようであるいろいろ失敗も多いが、何とかやりとうすようである。

家庭でも、やはり、子どもたちでやりたいことは、たくさんあると思う。それを、へただから、めんどうだからと、親が取り上げてしまい、せっかくの自主性の芽をつんでいることはないだろうか。保ごからは、決して、自主性のある子も、ねばり強い子も育たないのではないかと思っている。

◦子どものしつけは

——みんなの力で——

子どものしつけは、家でみっちりすることはもちろんであるが、他人の子どもであっても、悪いことをしていたら、みんなで注意してやらなければ、と思っている。

開発センターへ寄付金

——役場の職員たち——

朝日町の開発センター及び庁舎は、今秋の完成をめざして着々と工事がすすめられておりますが、このほど町の職員組合では、センターの完成を記念に自分たちの善意を持ち寄り、備品購入等に少しでも役立てようと寄附を募り、集まった二十三万九千五百円を町に寄贈いたしました。

町では職員たちの善行に心から感謝しており、記念になる備品購入のために使わせていただくことにしております。

交通安全施設に

一万円贈る

このほど、西町の松尾キヌさん（48歳）が役場を訪ずれ「快気祝をするかわりです。交通安全施設のためにでも使ってください」といって現金一万円を寄贈されました。

松尾さんは先頃交通事故にあって入院され、ようやく全快されたものですが、町では松尾さんのご厚意に感謝し、早速交通安全施設費の一部として使わせていただくことになりました。

◦本町若妻会より　二、〇〇〇円
◦廃品回収々入　二一、二〇〇円
　計　約　四六、三四〇円
以上が、昨年度活動の内容です

書道展にこぞって入選

＝大沼分校の子どもたち＝

大沼分校では、全生徒が習字練習を行なっていますが、習いはじめて二カ月足らずという時点で、全国教育書道展に出品したところ全員が入選するという、すばらしい成績を納め、話題になっています。

成績

特選　二年　小林　昭一
〃　三年　東海林俊幸
金賞　六年　白田　進
銀賞　二年　白田　茂
〃　三年　白田　浩二
〃　白田　千晶
〃　五年　小林なほ子
〃　白田よし子
〃　六年　白田　照美
〃　白田美智子
銅賞　二年　白田　義人
三年　白田　直樹
〃　白田　秀昭
〃　小林由美子
〃　六年　白田千賀子
〃　白田　博美
〃　東海林洋子
佳作　四年　小林　恵子
〃　五年　小林　勝弥
〃　最上みとえ

私のショッピング

私の買い物といっても、日用品ていどで、ほとんど近所の店から買っています。ここにきて感じたことは、どこの店もお客の数が少ないことですよくこんな状態で商売が成り立つのだろうかと思います。

商店街は整っているし、店のつくりなどもよい感じで、あまり田舎だという気がしません。店員の応待なども悪くないし、どこの店も買い物しやすいふんいきがあるんではないですか。

まだある殿様商法

いねいにすぎるというか、殿様商法的な店もあるようです。それに、洋服地・食料品なども量的にはそろっていないし、値段も少し高いような気がします。輸送費などもかかるのですからあるていどはやむを得ないと思います。

品物なども最近はよくなっていると思います。とくに食料品の場合は「鮮度のよいもの」をほしいわけですけれども、鮮度のよいものも容易に買えるようになったようです。

ただ、一部ですけれど、ごてごていますが……。

また配達をお願いしても、なかなか配達してもらえないということもあるし、買った品物を包装するにしても何かのろのろしているような気がします。これは、全部が全部ではありませんが、もう少しスピーディに物を売ることも必要ではないでしょうか。

（元町・主婦）

（大沼トミさん）

水道料金を改訂

七月から五割アップ

現在の水道料金は昭和四十二年に改訂されたものですが、給水原価を割った安い料金であったためこのままの状態で行きますと、今後累積赤字の増大が心配されます

さらに、水の需用増によって年々水不足が著しくなっており、その解決のために拡張工事が行なわれたこともあって料金の改訂がなされたものです。改訂額などのくわしい点については、チラシなどでもお知らせいたします。

国民年金老齢年金

受給者第1号誕生

国民年金制度が発足して、保険料（掛金）の納付が始まってから今年の三月で、満十年になり待望の老齢（十年）年金を受ける権利が出来たことは、皆さんご存じのとおりです

去る、六月十六日に今年の四月中に六十五歳を迎え、十年年金の受給権を得た県下約百三十名のかたたちが東根市立厚生会館に集まり、老齢年金受給者のつどいが開かれました。

そのつどいに、当朝日町からただ一人出席した、和合の佐藤志のぶさんの喜びの声を聞いてみました。

――年金証書を手にしてどんな気持でしたか。

「うれしかったです。これで待望の年金がもらえるという、実感がわいてきました」

――証書を手にするまでには、十年間という長い期間があった訳ですが、その間の話しを聞かせて下さい。

「年金に加入する時には、年をとってから年金がもらえる制度ができたということを聞いて、喜こんで加入しました。十年という長い期間でしたが、掛金もたいした額ではありませんでしたので、掛金に関し苦労したということもなく過ぎてしまいました。

もうすぐ、年金を受けとることができるようになり、国民年金に加入していて、本当によかったと思っています」

――今年の五月分から月五千円、年六万円の年金がもらえますが、年金をもらったら、何にお使いになる予定ですか。

「今のところ、特別考えてもいませんが、第一回目の年金は八月にもらえるそうですが、ちょうど月おくれのお盆にあたりますから、さっそく私を生んでくれた両親のお墓にお参りし、これまで元気に生活できたことへの感謝と、朝日町で十年年金受給者第一号になった喜びを知らせたい、と思っています」

佐藤さんはそのように話しをされ、今は桃の袋かけが忙しいときだから、と元気に果樹園に出ていかれました。

本当に、国民年金老齢年金受給者第一号おめでとう。

これからも、お身体に十分気をつけて、元気に長生きされ、国民年金で豊かな生活をお過しください。

（佐藤志のぶさん）

郡大会で優勝（バスケット）

＝＝宮中女子チーム＝＝

さる六月十九、二十日の二日にわたって寒河江市を中心に行なわれた西村山中学校体育大会において、宮中女子バスケットチームは七年ぶり二度目の優勝をかざりました。大会では、優勝候補の筆頭にあげられていた寒河江陵東中と一回戦で対戦、大接戦のすえ34―31でしりぞけ、二回戦では谷地中を49―35、決勝戦では高松中を50―36の大差でくだし優勝しました。

また、そのほかでは、男子剣道個人の部で大谷中の白田守司君が優勝、卓球女子ダブルスでは西中の阿部・松田組が優勝したほか、女子ソフトで宮中が三位、剣道で大谷中が三位、卓球女子ダブルスで西中の阿部・阿部組が二位というすばらしい成績でした。

町の重要文化財

指定書を贈る

先に町の教育委員会では、町の重要文化財として古文書など十七点を発表しましたが、このほど、その指定書を各所有者に贈りました。

指定された文化財は有形無形あわせて十七点で、神領安堵状（長享二年）立願状（天文十六年）神領処断状（天正五年）立願状（天正八年）立願状（文録四年）感状（慶長五年）笈・石灯篭（以上八点大沼最上敬一郎氏所蔵）

鈴状土製品、独鈷石、石製剣（以上三点、舟渡田原真稔氏所蔵）

土隅、石棒（以上二点、上郷松尾亮蔵氏所蔵）善光寺式阿弥陀金銅仏立像阿弥陀如来洗米鉢（以上二点、大谷正志氏所蔵）韋提希夫人画、鐘桜堂（以上二点、八ツ沼若宮寺、登坂高頭氏所蔵）角田流八ツ沼獅子踊り

大沼分校に山本文庫

＝＝読書に親しむ子どもたち＝＝

このほど大沼分校の子どもたちに文学集、童話の絵本など沢山の本が贈られ話題となっております。本の贈り主は、寒河江小学校の出身で、現在東京で桜美林大学教授日本大学講師などをなさっておられる山本文之助さん（文学博士）とおっしゃる方です。

今年の四月、山本博士と交友の深かった小林たに先生が、寒河江小学校から大沼分校に赴任されましたが、大沼の部落や子どもたちの様子を小林先生の手紙で知った博士は、「少しでも子どもたちに喜こんでもらえれば……」といって、子どもたちへの手紙を添えて贈ってくださったものです。

子どもたちは、贈られた本に山本文庫と名付け、読書に親しんでいます。

PTA総会開く

父兄負担の軽減要望

昭和四十六年度の朝日町父母と教師の会（PTA）の総会は、このほど立木小学校を会場にして開かれました。

総会には、町内各地区から父兄の代表者や各学校の先生たちが出席し、予算、決算などを決めたあと、各地区におけるPTA活動の状況報告、今後の活動のあり方などについての話しあいが行なわれました。

とくに、学校プールの建設など年々父兄の負担が多くなっており、町の施策として父兄負担を少なくするよう町に要望してほしいといった意見が出され、今年度は、事務補助員（町と父兄が金を出して雇上げている）の負担を一本化して、経費の八割を町で負担するよう強く働きかけて行くことになりました。

農作業メモ

夏にかけての家畜衛生

家畜は暑さに弱く夏をむかえて極度に体力の消耗するときです。体力の弱った家畜は、さまざまな病気にかかりやすくなります。

つねに畜舎を清潔にして、病気の発生源をとり除き環境を整備してやることが大切です。

◎夏は鶏の呼吸器病（ウイルス性伝染病）が多く発生します。鶏舎内のガスやほこりが原因ですから換気をよくすること。

◎一般に生草を与える時期は、牛馬の蹄ののびるときですから、蹄を切っておくことも大切なことです。特に乳牛は蹄が不正な場合、姿勢が悪くなり乳量が減るといわれています。

◎豚コレラ・流行性脳炎（豚馬）ニューカッスル病の予防注射を必ずうけること。

◎畜舎の出入口に、踏込み消毒盤（三%ゾール製剤液を入れた容器板）を設け病源菌を防止する。

水田中期の水管理

水田中期の水管理には、根の保全と稲の生育を調節するという二つの目的があります。

六月下旬から七月にかけては、これまでの無こう分けつを抑制したり、根を安全に保つために、水田の中干しに入るときです。

しかし、最近の水管理の研究では、期待茎数の確保後はただちに間断かん水に切りかえ、中干しを分散したかたちで入れてやることが得策といわれています。

平坦部、山間部を問わず稲の生育期間で最も重要な減収分裂期には、低温に充分注意した水管理に努めることは常識ですが、逆に高温条件下には水を停滞させることは稲の調落を大きくします。

したがって、気温が三十度をこえるときは、表面水を払った飽和程度か、または水のかけ流しで対処することが必要で、稲の生育と気象の変化に気をくばることです

衣類寝具の土用干

土用干しとは、寝具や衣類をしまっている間に含んだ湿気を発散させることです。

つまり、ツユあけどきに寝具や衣類についているしみや汚れの手入れをして、カビを防ごうとするものです。したがって、虫よけのための虫干しとはおのずからそのねらいと方法がちがっています。

①晴天の日に十時頃から午後三時頃まで干し、寝具類は（フォームラバーを除く）戸外で直射日光を当てて乾かす。

②衣類は風通しのよい室内に綱をはり、拡げて乾かす。毛製品は十一月末か二月頃に虫干しをするこ

とにした方がよい。

③皮製品のカビは、ビロード布でふくか、五十倍にうすめたアンモニヤ水をひたした布でふき、そのあと皮クリームかコールドクリームをつけてみがいておく。

ホップの乾燥防止と除草

日照りの続く七月は、最も水分を必要とします。この時期に水分が不足すると肥料不足より大きい害が出ます。球果が大きくなる時期に水分が不足すると、花は大きくならず、極端なばあいは本葉から枯れてしまうことがあります。

△水分不足を防ぐためには▽

。ほ場全面に敷わら、敷草をする。

。株の両側か片側を、ビニールかポリフィルムなどでおおう。

。灌水（流水）設備や防除機具を利用して、畦間に灌水する。

。毎年干ばつにあう畑は、たい肥を多くして、保水力を高めておくことが大切です。

△雑草の発生を防ぐには▽

乾燥防止の敷わら、敷草をする前に、ロロックス・アファロン・CAT・PCPなどの除草剤を散布する。草の伸びているときはレグロックス・グラモキソニ・ワイダックなどを散布し、草むしりの手間をはぶく工夫をすることです

台風の襲来に備えよう

夏の訪ずれと共に、心配されるのが台風の襲来です。今年もすでに台風13号が本土に上陸し大きな被害をもたらしました。毎年、三～五つの台風は日本に上陸するといわれています。つぎのようなことに注意して、台風の襲来に備えましょう。

▽これからは、天気予報によく注意して、台風が近ずいているかどうか確かめておくことです

▽台風が近ずいているときは、進路はどうなっているか、自分たちのところにいつ頃最も近ずくのかといったことに注意しましょう。

▽家の回りや水田・園地などを常に見回り、危険な所はないかどうか確かめよう。補強すべきところは補強し、万一の場合に備えて避難場所なども家族で話しあっておきましょう。

▽ロープ、携帯ラジオ・懐中電灯・着替・救急医薬品などをまとめて準備しておきましょう。

▽洪水・ガケ崩れなどの場合はいち早く避難することが大切です。より早く安全な場所に避難する訓練なども必要です。

町民の声

自然保護を忘れるな

いよいよ登山シーズンを迎えましたが、重いリックを背に嶮しい山路を汗を流して登り、あの朝日の山頂から、大自然の姿をながめるのは何んとも言えない気持です。

朝日に登る人々も年々多くなっておりますが、公害のはんらんする都会から逃がれて、雄大な自然の中にいだかれたい気持で人々は登って行くものと思います。

それにしても、近頃山に登って気のつくことは、ふもとの森林がつぎつぎと乱伐されていることです。山は太古からのものぶなやナラの林がうっそうと繁っていてこそ、深山に入った気持になれるのであり、山の美しさ、大自然の価値というものがあるのではないだろうか。

朝日連峰は俗化させない。自然保護の考えで行く、といった話を聞きます。しかし、あのように乱伐して果たして自然保護といえるのだろうか。そして又近年は林道網などの整備もすすめつつあり、山岳観光道としても生かそう、といった考えがあるようですが、それには沿線の森林保護、昔からの原始景観を守ることを忘れてはならないと思います。

そうしたことから、町でも営林署等に強力に森林の保護を働きかけて行くべきではないだろうか。

原始景観、自然の美しさと調和のとれた開発こそ、朝日岳開発の鉄則ではないだろうか。できれば具体的な今後の朝日岳開発の考え方を関係当局の方からお聞かせいただきたいと思います。

（西部　岩松　岳雄）

お年寄りを大切に

さる五月二十七日に、北部公民館において大谷地区の敬老会が催されました。

お互いに連れだって、元気な足どりで次々とおいでになるお年寄たちを迎えながら、私たちもうれしい気持でした。みな健康そうな元気な方ばかりで、この方が敬老会に招待されるお年寄りなのだろうかと思ったほどでした。宴会も豪華なものではありませんでしたが、元気なお年寄りたちの歌や踊りが次々と出され、本当に意義のある敬老会であったと思います。

この敬老会を終って、いろいろと感じさせられたことがありました。和服や洋服を上手に着こなしてしゃんとした姿は、十年、二十年前の老人のイメージとはくらべものにならないほど若々しさが感じられ、後に続く私たちも負けてはいられないという気がしました。

みんながこのように長生きし元気でおられることは大変喜こばしいことだと思います。しかし、その反面に、老人をとりまくいろいろな問題も少なくないようです。

先日の新聞の片隅に「老人が居なければ不自由だが、居ればじゃまになる」といった記事がありました。私自身も近い将来は老人の仲間入りをしなければならない年令にあり、この言葉が痛いほど心にしみて感じられました。

寿命が延びた喜びもさることながら、その反面に老人福祉の現状を思うとき、複雑な気持になってしまいます。いったいどんなことをすれば、じゃまもの扱いにされない老人になれるのか。老人はどんな生き方をして行ったらよいのか、どなたかご意見をお聞かせいただきたいと思います。

（北部　白田）

子供の水死事故をなくそう

梅雨の季節と共に、いよいよ暑い夏が近ずいてきます。そして、水死事故のニュースも時折り聞かれるようになります。

聞くところによると、町内の子供の事故死の中では、水死事故がもっとも多いと言われますとくに川のそばや溜池のそばで遊んでいて、川や池にはいっておぼれ死んだという例が多いようです。

今町内の各学校には、プールもつくられており、川で水泳することもなくなり喜こばしいことと思います。しかし、まだ川に行って遊ぶ子どもも多くあるようです。学校ではもちろん、私たち父兄もお互いに注意しあって、こうした危険な川などで遊ばせない運動をすべきではないかと思います。

また、防火用水池や溜池などでの事故も多いようです。各部落においても、常に点検されてさくや金あみのこわれている所は修理しておくなどして、子どもたちを水の事故から守ってあげたいものです。（中部主婦）

便利な電話の使い方

不良業者に注意

電々公社とは関係のない業者にご注意ください

最近、町内各地であたかも電電公社の職員のようにみせかけて、法外な値段で「電話機の置台」や不良品の「受話器用の消毒器」、故障の原因となるような「らせんコード」、そして「私製番号帳」の販売など、規格外のものを売り歩いている不良業者が横行しているので十分ご注意ください。

これらの業者はいっさい電電公社とは関係がありません。不審と思われる場合は、すぐ7—2000番にご連絡ください。

なお電電公社ではコンサルタント活動、電話番号帳の広告掲載募集、便利な電話機の利用紹介などで皆さんのお宅を訪問することがありましても、その場で直接現金をいただくようなことはありません。

料金に関しては必ず電報電話局の窓口や毎月の電報電話料金の公社請求書に含めて請求し、これによってお支払いをいただくことになっております。

（電報電話局）

戸籍の窓

出生

昭和46年5月1日～5月31日まで

部落	氏名	父名	続柄
宇津野渡辺	昭子	健太郎	二女
一ツ沢阿部	春男	哲	二男
水本	森	政利	二男
大沼	小林	奈美	長女
大谷一長岡	勉	秀一	二男
本町	大沼	光幸	長女
沼向	菊地	修子	三女
常盤	井上美樹子	忠芳	長女
能中	志藤	護精一	三男
沼向	佐藤	州仁士	二女
大暮山阿部	和子	久三	二女

死亡

昭和46年5月1日～5月31日まで

部落	氏名	年齢	世帯主
西町	鈴木とみゑ	70	春男
大谷五長岡	マサノ	86	チョウ
宇津野細谷	のぶ	53	隆
太郎三長岡	すミの	89	民雄
松程	鈴木たかの	72	吉
八ツ沼阿部	留七	73	昭
立木	阿部幸太郎	48	たまよ
元町	熊坂みつ江	71	正一
小原	菅井 留吉	67	久
大谷五川村	ふて	81	幸多
宇津野浅岡	はな	66	安吉
本町	杉沼 源蔵	59	正博
常盤	斎藤清兵衛	85	清治
古槇	清野喜代治	67	俊男
大谷一白田	清次	56	なか
宇津野渡辺佐代子		1	長吉

婚姻

昭和46年5月1日～5月31日まで

太郎三	石須部	大沼	大隅
長岡健三郎	長岡かづ子	小林	武司
大谷五	舟渡	栄町	宇津野
志藤 洋一	五十嵐恵美子	阿部	勝介
大隅	太郎一	大隅	大江町
近衛 正雄	長岡富美子	鈴木勝太郎	鈴木とみ子
		常盤	太郎三
		佐竹	利晴
		西川町	常盤

話しの籠

快気祝のかわりにと
町社協へ寄贈

このほど、町の社会福祉協議会に対して、元町の富樫善七さんより一万円、西町の阿部みや子さんより七千円、それぞれ「快気祝をする代りです。恵まれない人のためにでも使ってください」といって現金が寄贈されました。町では、お二人の善意に感謝し、有効に使わせていただくことになりました。

北部保育所に
贈りもの

このほど、北部保育所に対して同保育所の父母の会から、ヤマハアコーデオン（二万二千円相当）とヤシカエレクトロカメラ一台（一万五千円相当）が贈られたほか、北部婦人会から座ぶとんカバー五十枚（一万二千五百円相当）が贈られ、過日の定例町議会で寄付採納が行なわれました。

また、同じ北部保育所に対して大谷の藤田英一さん（藤田メリヤス）より、子供用サッカーボールなど、たくさんの遊具が寄贈されました。保育所では数々の贈物に心から感謝しております。

志田	重幸	長岡もと子	
元町		夏草	
長岡	五郎	井沢 達子	
水本		長井市	
岡崎	信一	加藤トシコ	
下芦沢		下芦沢	
岡崎	幸雄	岡崎まき子	
松程		立木	
鈴木	俊蔵	横山 末子	
大滝		大滝	
崎村	康男	高階みどり	
水本		白鷹町	
岡崎	清雄	石山さだ子	
助ノ巻		寒河江市	
鈴木	敏弘	秋葉とし子	
古槇		古槇	
渡辺	栄	渡辺 ツヤ	
新宿		松程	
佐藤	隆夫	向 すげよ	
本町		沼向	
神奈川県		送橋	
二宮	武男	安藤 喜子	
送橋		長沼	
渡辺	義一	長岡由利子	
西舟渡		栄町	
阿部	安男	阿部 幸子	

順一 ― 菅井いさ子

46年5月31日末現在

世帯数		2,789戸
人口	男	6,169人
	女	6,416人
	計	12,585人

▽七月三十一日は所得税第一期分の納期限△

七月三十一日は土曜日なので収納取扱いは午前中となります（寒河江税務所）

広報あさひ　一七六号　昭和43年5月21日第三種郵便物認可　発行所　山形県朝日町役場　発行者　広報委員会　委員長　菅井　雅　月一回10日発行　一部20円印刷　浦山三盛堂